



大腸がん検診について

大腸がんの特徴

- ① 大腸がんは、大腸（結腸・直腸）に発生する「がん」で、腺腫という良性のポリープが「がん」になるものと、正常な粘膜から直接発生するものがあります。日本人ではS状結腸と直腸にがんがしやすいといわれています。
- ② 大腸がんになった人は、最新の2019年の部位別データをみると、男性・女性ともに2位、男女合計では1位でした。
- ③ 大腸がんで亡くなった人は、最新の2021年の部位別データをみると、男性では2位、女性では1位、男女合計では2位でした。
- ④ 大腸がんの死亡数は食の欧米化の影響もあり、今後も増加すると予想されています。
- ⑤ 大腸がんは早期に発見すれば根治が可能な「がん」ですので、検診の受診が大切です。

大腸がん検診の方法

1) 便潜血検査

2日分の便を採取し、便に混じった血液を検出する検査です。

2) 対象年齢

40歳以上

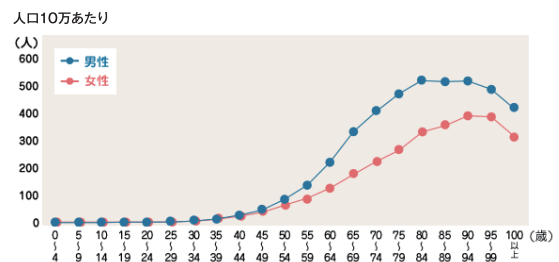
3) 大腸がん検診の精密検査

検診で「異常あり」という結果を受け取った場合は、必ず精密検査を受けてください(実施医療機関は巻末参照)。大腸がん検診における精密検査の第1選択は、全大腸内視鏡検査です。その他、S状結腸内視鏡検査と注腸X線検査の併用法、または大腸CT検査があります。

※便潜血検査で「異常あり」の方は再検査ではなく、必ず精密検査を受けてください。

出典：国立がん研究センター がん情報サービス「最新がん統計」 厚生労働省「全国がん登録 罹患数・率 報告 2019」

年齢階級別の大腸がん罹患率(2019年)



メッセージ

大腸がんは早期の段階では症状がほとんどありません。大腸がん検診は無症状の健康な方が受けるものです。以下のような症状(サイン)がある場合には、検診を受けるのではなく精密検査実施医療機関を受診してください。

- 便に血や粘液が混じったり、下血したりする(痔と自己判断しないこと)
- 下痢と便秘を繰り返す(便通異常)
- 残便感がある
- 腹部に膨満感がある
- 腹痛がある
- 肛門痛がある
- 腹部にしこりがある
- 便が細くなった
- 貧血症状が続く
- 治りにくい痔がある
- 家族の中に大腸がんになった人がいる
- 大腸ポリープが見つかったことがある